

長久手市の火葬の現状とこれから

問 環境課 ☎56-0612

高齢化に伴う死者数の増加により、長期間火葬ができない「火葬待ち」が全国的に問題となっています。本市には火葬場がないため、亡くなった人の受け入れを近隣の自治体の火葬場に頼らざるを得ない状況です。今回は、本市の火葬場の現状と今後の影響について考えます。

1 年間死亡者数の推移

本市の死亡者数は2018～2021年度までほぼ横ばいでしたが、2022年度から増加傾向にあります。



2 火葬の状況

本市の2023年1月1日～12月31日の死亡届受理件数は386件で、うち58.3%が名古屋市天白区にある八事斎場、35%が瀬戸市にある瀬戸市斎苑で火葬されています。

例年、冬季に件数が増える傾向にあり、1日あたりの対応件数を超えることもあります。さらに高齢化も進む中で、現状のままでは次の火葬待ちが連鎖的に発生することが予測されます。

また、八事斎場は施設の老朽化による再整備のため、4月1日～2028年5月31日まで稼働停止する予定です。

3 今後考えられる影響

今後も死亡者数は増加すると見込まれており、近隣市町の火葬場には住民の火葬待ちの発生を防ぐため、市民優先枠の設定を検討している所もあります。火葬場を持たない近隣市町はこれまでより長く待ち時間が生じたり、比較的空きのある朝早い時間帯や夕方の遅い時間帯などに火葬を行う必要があるなど、各種費用や告別式等のスケジュールに影響することが懸念されます。

また、近隣の火葬場に空きがない場合は本市から離れた火葬場で火葬を行わなければならない、遺体の移送や遺族の移動等の費用にも影響する可能性があります。

本市では、故人の尊厳を守り将来にわたって安心して弔うことができるよう、火葬場の在り方について検討を重ねていきます。

